プリンセス
小公女セーラ

第14話

『深夜のお客さま』

AR台本

企画
制作
日本アニメーション株式会社

プリンセス
小公女セーラ

第十四話『深夜のお客さま』

登場人物

セーラ……………島本須美
ミンチン……………中西妙子
アメリア……………梨羽由記子
アーメンガード……………八百板万紀
ベッキー……………鈴木三枝

ラビニア……山田栄子
ガートルード……佐々木るん
ジェシー……飯塚はるみ
ジェームス……郷里大輔
モーリー……向殿あさみ

カメラ	画面		音声
1	（朝） ピーとふき出す ボウと汽笛を鳴らし動き出す		S・E （シュー、ボーッボッ）
2	列車が高架を行く		S・E （汽笛）
3	台所の窓　列車が行くのが見える　セーラが皿をもって入ってくる		S・E （台所のにぎわい）
4	ジェームス　鍋をかき廻している　立つ湯気　ベッキー、カマドをあけて具合を見ている		
5	焼けたパンを出すベッキー ヘラの上にパンをのせる ヘラにパンをのせ、去るベッキー 奥で料理をしているモーリー（湯の加減でも見ている）		
6	ベッキー　パンをカゴにあける 前をふと見る		

7	ベッキーと同テーブル奥で皿をかかえて立ちすくんでいるセーラ　こまった表情で見上げるセーラ　T・U（頭からT・U） 尻止め		
8	大鍋をかき廻すジェームスの手 味見をするジェームス　うなずいて、鍋をおろすと重そうに鍋を持ってセーラの方へ行く		
10	ジェームス　テーブルの上へ鍋をドンと置く はっとなって見るセーラ 手前に来るセーラ		ジェームス「さ、こいつを運ぶんだ」 セーラ　「ハ……はい！」
11	さっと近づくセーラ セーラ　鍋に手をのばす セーラ　鍋にさわる 鍋の熱さで、手を引っこめるセーラ ジェームス　腰に手をやり、にくにくしげな表情で……		セーラ　「アッイ！」 ジェームス「チッ、おじょう様育ちで…… 〜

12	手をこすっているセーラ ジェームスの方を見る		(off) ～鍋なんか持った事ないってのか。けど、 ここで働く以上これからは ～ そうはいかねえぞ。鍋でもこぼして見ろ、かんべんしねえからな」
	A・C		
13	うなだれるセーラ ジェームス out セーラ 鍋を持とうとする所へ ベッキー in ふりかえるセーラ		セーラ「は、はい、ジェームスさん」 ベッキー「あの……」
14			ベッキー「私が運びますから」
15	自分のエプロンを使って鍋を持ち上げるベッキー		
16	ベッキー 鍋を持ってドアの方へ向う		
17	あわててお礼を言うセーラ そこへモーリーがパンの篭をつき出す 気が付きふり返るセーラ		セーラ「あ、ありがとう、ベッキー!」

18	モーリー　パンの篭をセーラにつきつける		モーリー「さ、生徒さんたちはもうそろってるんだよ。 ～ お前は早くこのパンをお運び！」
19	セーラ　モーリーからパンの篭を受け取る セーラ　うなずいて		セーラ　「はい、モーリーさん」
20	（食堂）　席についてしゃべっている女生徒たち　→ＰＡＮ		
21	しゃべっているジェニファとダイアナ ふり返って、ドアの方を見る 又、話をし出す		S・E　（ドアの開く音・ガチャ）
22	ざわざわしている　笑い合うラビニアとジェシー		
23	ベッキーがオートミールの鍋を持って手前へ歩いて来る その後ろ、セーラがパンの篭を持って来るのが見える		

24	ざわざわしている生徒たち ベッキーがその前を鍋を持って ロッティーたちのテーブルへ行 く　生徒一同、入口を全員はっ となって見る		
25	入って来るセーラ		
26	シーンとして見つめている一同		S・E　（ドアの音）
27	ラビニア　冷笑（T・U）		
28	目をふせるアーメンガード		
29	ベッキー　ロッティーたちのテ ーブルで、鍋のオートミールを くばりはじめている		
30	セーラを見つめるロッティー		
31	見つめる一同 セーラのカート入る		

32	上がるセーラ　うつむいている 歩き出す		
33	セーラ、ジェニファとダイアナ にパンを配る		
34	アーメンガードの方へ場所を移 動するセーラ		
35A	アーメンガードにパンを配る アーメンガード　セーラの方を 見上げる セーラ　アーメンガードの後ろ をドルシアの方へ向う セーラの動きを追うアーメンガ ード、何か言いたそう		アーメンガード「………」
35B	じっと見つめるロッティー		
36	ドルシアにパンを配り、ラビニ アの方へ向うセーラを見つめる ラビニア		

37	はっとなって止まるセーラ 目を伏せる		
38	ラビニア　意地悪そうに、そんなセーラを見ている		
39	歩き出すセーラ		
40	ラビニアの皿にパンを置こうとする　セーラの視観カット パンを置いた一瞬、ラビニアが皿をツン・と小突く		
42	はずみでパンが下へ落ちる （アオリ）		
41	はっとなるセーラ		セーラ　「アッ」
43A	パンを見てにやりとするラビニア、セーラの方を向く		
	A・C		
43B	ラビニア　キッ・とセーラの方を睨んで		ラビニア「なにするのよ！」

44	セーラ　表情少しけわしくなる		
45	注目する女生徒たち		
46	心配するアーメンガード		
47	動きを止メるベッキーと子供たち		
48	ラビニア　いじわるそうに ふるえるセーラの手		ラビニア「あんたが落としたのよ」
49A	にらんでいたセーラ		
49B	にらみ合う二人　シャがむセーラ		
50	パンをひろうセーラをにやりとして見つめるラビニア		
53	セーラ　立ち上がる　振り返る （T・U）セーラ、だまって怒りを押さえる		

54	ラビニア　いじわるそうにセーラを見ている 振り返るラビニア　ドアの方を見る		ラビニア「なによ、そんなパンを私に食べさせる気？　取り替えなさいよ」 S・E　（ドアの開く音・ガチャ）
55	ミンチンとアメリアが入って来る		
56	二人　ダンロの方へ歩きかける		一同　「お早うございます」 ミンチン「お早う！」
58	ミンチン　セーラの方を見て		ミンチン「そこでなにをしているのです！」
59	セーラ		セーラ　「は、はい……、お早うございます、院長先生」
60	ラビニア　ぱっと立って		ラビニア「院長先生！」
61	ラビニア　さもセーラが悪いように		ラビニア「セーラが私のパンを……わざと、床に落としたんです！」

62	ミンチン　ヒクリとまゆを動かし、やや前に出る		ミンチン「なんですって！」
63	セーラ　うなだれて（T・U）		セーラ「いえ……あの……」 ミンチン(off)「セーラ……お前はもう生徒ではないのです。友だち同士のような意地悪は許しませんよ。ラビニアに謝りなさい」
64A	ラビニア　振り向いて、ふふんと鼻で笑う！ 仕方なく、黙って頭をさげるセーラ		
64B	セーラ　くやしさに歯をくいしばっている		
65	立ち尽くして見守るベッキー		
66	ミンチン ミンチン　メガネをちょっと直しながら		ミンチン「皆さんにも改めて言っておきます。特に用事のない限り、今までのようにセーラに話しかける事はなりません…。セーラ、さあ早く食事の用意を……」
68	ラビニア　座る セーラ　別のパンをラビニアに		セーラ「は、はい……」

	配る
69B	勝ちほこったように笑うラビニア
70	セーラ　そんなラビニアを無視してジェシーにパンを配る
71	ガートルードにも配る
72	心配そうな顔を見せるダイアナとクリステル
73	アーメンガード　茫然とセーラを見つめている（T・U）
74	ロッティーがいまにも泣きそうな顔でセーラを見守っている！
75	悲しさをこらえているセーラ
76A	見つめているラビニア

76B	（台所）ジェームス　怒っている セーラ　うなだれて	ジェームス「なに！パンを落とした！」 セーラ「すみません、ジェームスさん」
77	ジェームス　たなの方へ歩き出す たなから、パンを一つつかむ	ジェームス「フン、落とした奴は、お前が食べるんだな」
78	ジェームス　振り返って、テーブルの上のパンの篭の中へかわりのパンをほうりこむ 台の上の篭の中へパンが入る	
79	ふさぎこむセーラ　ベッキーなぐさめている	
80	セーラ　振り返って	ベッキー「お嬢様……私、見ていました。悪いのはお嬢様じゃありません、ラビ……」 セーラ「有難うベッキー、もういいのよ」
81	そこへモーリーがin　来る	モーリー「さあさあ、授業が〜始まる前に教室をそうじしとくんだよ」
82	モーリー　クイッと首で合図す	

	る		セーラ(off)「はい、モーリーさん……」
83	教室内　掃除をしているセーラ 中央の机終わり、一番前の机に移るセーラ		
	A・C		
84	ラビニアの席　始めようと思って手をつきうつむくセーラ たれた髪を手でかき上げて気を取り直して掃除を始める		
85	机の上を拭くセーラの手 拭き終わる		
86	振り返り、教室をながめ回す 傍の馬穴に行き、雑巾を入れて歩き始める		S・E（振鈴が鳴る） S・E（扉のひらく音）
87	はっとなり止まる		
88	手をおろし、にやりとするラビニア　手前に歩く　つづいてジェシーとガートルード		

89	顔をそむけるセーラの傍を冷笑して机の方へ行く三人　机のところへ行く　顔を見合わせて囁き合う三人 はっとなって顔を上げるセーラ		リンダ・ダイアナたちの笑い声(off)「〜〜〜〜〜　」
90	笑っていた三人（ダイアナ・リンダ・クリステル）はっとなって笑いをやめて横の方へ歩いていく		
91	淋しげな表情で歩き出すセーラ		
92	ガートルードとラビニア　顔を見合わせてニヤリとする ラビニア　机の中から石板をとり出す　石ロウでぐちゃぐちゃとかき、こすり		
93	机の上をコンコンとたたく—— 落ちる石ロウの粉		

94	モップをとって、廊下の方へ行きかけるセーラ 振り返るセーラ		ラビニア(off)「……まちなさいよ!!」
95	机の上を指しながら		ラビニア「なによ、このお掃除のしかた……石板の粉が一杯じゃないの」
96			セーラ　「でも、そこは今拭いたばかりよ」
97	キッとなって立ち上がるラビニア 一寸ためらうが、ラビニアの方へ行くセーラ		ラビニア「じゃ……ここへ来てごらんなさいよ…」
98	立っているラビニアの前に止まるセーラ チラリと机の上を見たが凝然としてラビニアを見るセーラ T・U　尻止メ		ラビニア「……ほら、これでも拭いたばかりだなんて言えるの？」
99	三人　息をのんで見つめる		
100	走って来た㊦　はっと止まる		

	淋しそうな顔で入ってくる つづいてジェニファーも入って来て、ドアを閉めていく		
101	セーラを見つめるラビニア		ラビニア「……さ……早く拭きなさいよ！」
102	じっとにらんでいたが、馬穴を置く		S・E（床に馬穴を置く音）
	A・C		
103	雑巾を持ったセーラ　机の上を拭く　ラビニアとガートルード顔を見合わせてニヤリとする		
104	くやしそうに机を拭くセーラ		
105	拭いているセーラをからかうようにラビニアの後から		ジェシー「ね、この席誰れの席だったか憶えている」
106	手を停め、キッとなって顔を上げるセーラの傍に寄るガートルード ガートルードを見返すセーラ 目をほそめ、口をすぼめてオー		ガートルード「ほら、あんたの席じゃない、代表生徒だったときの……」

	コワイとふざけるガートルード		ラビニア(off)「今は…… 〜 私の席……」
107	悠然と座るラビニア 冷笑するラビニア		ジェシー「あんたに代わって、代表生徒になったラビニアのね」 ラビニア「セーラ、これで私とあんたがどんなに差がついたか、よく判ったでしょ」
108	じっと見返すセーラ　T・U		
109	心配げに見守る一同		S・E　(扉の開く音)
110	あわてて席につく生徒たち 扉を見てかしこまる セーラ　モップを持つ アメリア　一同を見廻してセーラの方へ進む		アメリア「あの…… 〜 皆さんと一緒にいたい気持は判りますけど、もう、あなたは教室に出てはいけないんですよ。院長先生に叱られますからね」
111	困惑ぎみのアメリア		
112	うつむいているセーラ		セーラ「はい、アメリア先生……」

	腰をかがめて馬穴を持って手前に歩くセーラを見送るアメリア　笑みを浮かべて見送るラビニア		
113	出ていくセーラ		
114	見送る一同		S・E（扉の閉まる音）
115	セーラ立ち止まり、教室の中に耳をかたむけ、かるくためいきをついて歩き出す		アメリア(off)「さ、今日はフランスしゅうを練習しましょう」 生徒のかん声「　」
116	その時、二階の階段から遅刻して駆け降りて来るアーメンガード		
117	アーメンガード　セーラに気づいてハッと立ち止まる		アーメンガード「セ、セーラ……」
118	セーラ　思わずアーメンガードを見る		
119	アーメンガード　うつむいて、		アーメンガード「あの……あなた……お元気…？」

	口ごもりながら		
120	セーラ　複雑な表情		セーラ「ええ…なんとか……」
121			アーメンガード「あの……私はとても元気……」
122	セーラ　ニコッと笑って見せる		セーラ「そう……」
123	アーメンガード　おずおずと		アーメンガード「あの…あなた、とても不幸せなの……」
124	セーラ　うつむいて、ためいきをついて歩き出す 茫然となっているアーメンガードの傍を過ぎていくセーラを見送るアーメンガード セーラ　地下への階段の方へ歩いて行く　それを見送るアーメンガード		セーラ「……私に話しかけない方がいいわ…さ、いって！」 アーメンガード「……セーラ……」
127	階段の下　ソッと出て来るベッキー　T・U ベッキー　悲しげな表情		

128	（地下作業室）　がっくりと壁に背をもたせかけるセーラ		
129	フーとためいきをつく そこへベッキーの声 振り返るセーラ		セーラ　「フー！」 ベッキー(off)「おじょう様」
130	作業場の入口に立っているベッキー		ベッキー「おじょう様……アーメンガードさんもアーメンガードさんですわ。おじょう様が不幸せになった位判っている筈ですのに……」
131	ベッキーなめのセーラ T・U セーラ　ちょっとうつむいて		セーラ　「いいのよ、ベッキー、あの人は思っている事をうまく、口に出せないだけなの……きっとそうよ」
132	ミンチン学園全景　（夜） いくつかの窓に明り付いてる ラビニアたちの部屋へT・U カット一杯		
133	部屋の中　ベッドに座って独り落ち込んでいるアーメンガード		

	注・ねまき姿　ドッと笑い声がかぶる		笑い声「〰〰〰〰」 （笑いこぼす）
134	ラビニア　自分のベッドに座っている　ジェシーとガートルードは自分たちのイスを持って来て座っている		ラビニア「全く、あのセーラがダイヤモンド・プリンセスと呼ばれてたなんてうそみたい」 ジェシー「ほんと、みすぼらしい恰好しちゃってさ！」
135	ジェシー　スッと立ち上がるとガートルードにミンチンのまねで、メガネをなおすふりをする		ジェシー「セーラ……お前はもうベッキーと同じ台所メイドなんですよ！」
136	ガートルードもスッと立って、手桶とモップを手にしたセーラのまねをする 一瞬顔を見合わせて笑う三人		ガートルード「はい。申し訳ございません、院長先生……」
137	離れた自分のベッドで下を向い		（笑い）

	て座っているアーメンガード 泣いているのかその肩が小刻み にふるえている　T・U		
138	泣いているアーメンガード 涙がキラッと落ちる		
139	ラビニア　冷たそうに		ラビニア「私、最初からセーラを好きじゃなか ったけれど、この頃のあの子ったら、 我慢できないわ……ものも言わないで ひとの顔をじっと見たりして……」
140	ジェシーとガートルード座る		ジェシー「この学校にいるのが嫌なら出て行け ばいいのよねえ」 ガートルード「そうよね、お情けで置いてもら ってるくせにねえ」
141	アーメンガードのむせび声 振り返るラビニアたち 顔を見合わせてニヤリと笑うラ ビニアたち		
142	ラビニア　自分のベッドから立		

	って、アーメンガードの方へ		
143	アーメンガードの方へそっと忍びよるラビニア		
144	肩をふるわせて泣いているアーメンガード アーメンガードの動きがビクッと止まる ガートルード来てのぞきこむ アーメンガード　逃げるように首を回す		ラビニア「アーメンガード」 ガートルード「なんで泣いてるのよ」 アーメンガード「私……私、泣いてなんていないわ」
145	アーメンガードの顔をのぞきこむ		ガートルード「わあ、泣いてる、泣いてる……」
146	アーメンガード　目から涙		ガートルード(off)「ほら、大きな涙が鼻の頭を伝わって落っこったわ。あ、もうひとつ…」
147	ジェシー　冷たくニヤニヤしながら ガートルード　下からおき上がって		ジェシー「判ったわ……あんた、また勉強が出来ないのが悲しくて泣いているのね」 ガートルード「この学校で一番出来ないんですものね」

	三人　顔を見合わせてクスと笑う		ラビニア「それとも、もうセーラに勉強を教えてもらえなくて、それが悲しいから？」
148	アーメンガード　泣き顔で顔を上げる わっとベッドに泣き伏すアーメンガード A・C		アーメンガード「そ、そうよ、私、悲しいのよ…。でも、勉強が出来ないから悲しいんじゃないわ……。ほっといてよ！」
149	顔を見合わせ肩をすくめるラビニアたち		
150	ラビニアたち見つめて――三人笑い合って去る		ラビニア「さ、ご注文通り、ほっといてねましょ、ねましょ」
151	ラビニア　机の前に来て灯を消す		
152	それぞれ灯を消し（BG　O・L　ベッドにもぐりこむ） アーメンガードの灯がついているので完全に暗くならない		

153	うす暗くなった部屋で一人泣きつづけるアーメンガード	

＜前半・おわり＞

154	（地下作業場）　水くみ場の水面　セーラ　スーパーでinして来る　手前からセーラの手、水くみ桶が水に入る	
153	セーラ　水をくみ上げ、ちょっとベッキーの方へ ベッキー　皿を洗っている	
156	そこへセーラが桶へ水を入れる	
157	ベッキー　洗い終わった皿をセーラに手わたす	
158	セーラ　ベッキーから皿をうけ取り、水くみ場のカドに皿を乗	

	せてふく　手がすべって、うまくふけない		
159	それに気が付くベッキー ベッキー　次の皿をわたさず、セーラからフキンを受けとる		
160	セーラに皿のふき方を見せるベッキー		
161	ニコッと笑って見せるベッキー		
162	それに答えて笑うセーラ		
163	セーラ　洗い終わった皿をもち上げる もち上げるが、重さでふらふらする　それに気付くベッキー		
164	セーラ　皿をもって棚の方へふらふらしながら向かう ベッキー　それを見ていたが、セーラに近づき半分もってやる		

No.	画面		台詞
165	ベッキー　ニコッと笑ってうなずく		
166	セーラ　うれしそうにベッキーを見つめる		
167	ベッキー　セーラといっしょに皿を棚に運んでやる		
168	その時ドアが開いて、ジェームス入って来る ここで大あくび		ジェームス「ファッファッファッ」
169	ジェームス　肩をたたいて ん、とセーラたちに気づく		ジェームス「やあ、今日は馬鹿にくたびれたな…」
	A・C		
170	ベッキー　仕事にもどって行く		ジェームス「なんだ、まだ片づかんのか……。 モタモタしてると、夜が明けちまうぞ」 セーラ　「は、はい、ジェームスさん」
171	モーリー　inして		モーリー「さあさあ、早く片づけないと灯りが 勿体ないよ、院長先生は油代にだって やかましいんだからね」

172	セーラ　ジェームスたちに ジェームス　少しあきれて ジェームス　肩をすくめて 手前を向き、仕事を始めるセーラの悲しげな顔 モーリー　ジェームスの方を見て モーリー　セーラをきっとにらみつける	セーラ「ハイ、モーリーさん」 ジェームス「はいモーリーさん、はいジェームスさんか……。返事だけは、相変わらずおじょうさんと来やがる」 モーリー「それが困るんだよ。いつまでもおじょうさん気分でいられたんじゃ、こっちだって使いにくくてしょうがないんだからね」
173		
174	ジェームス　モーリーの方を向いて ジェームス　セーラの方を向いて モーリー出入口へ向かう　つづいてジェームスも	ジェームス「フフ、違いねえ……。じゃ、明日からもっと、きびしくこき使ってやるから、そのつもりでいな」

No.	画面		台詞
175	ジェームス　大きくのびをしながら出て行く 見送った後、　顔を見合わせる二人		ジェームス「フ、ア……ファァ……!!」
176	ため息をするセーラ		
177	（ラビニアたちの部屋） アーメンガード　一つのこった燭台の灯りの中ですすり泣いている		
178	泣いていたアーメンガード、ようやく顔を上げ―― うつ向いている悲しげな顔 ややあって、ラビニアたちの方を見る		
179	寝静まった部屋		
180	アーメンガード　起き上がり、そっとわきの赤いショールを取る		

182	アーメンガード　立ち上がり、ショールを羽織り燭台へ一同をうかがうようにゆっくりと　ランプを持って、一同の方をうかがう		
183	寝静まった部屋を出るアーメンガード		
184	（地下作業場）　床を掃除しているベッキーのモップ		
185	セーラとベッキー　モップで床をふいてる　ベッキー　心配そうにセーラの方を見る		
186	掃除をつづけているセーラ		
187	セーラのモップ、からまってしまってうまくふけない		
188	フー！　とつかれたように身を		セーラ　「フー！」

	起こすセーラ それを見ているベッキー ベッキー　セーラに近寄り セーラ　ちょっとベッキーの方を見て また仕事にもどる　ベッキー話をつづける セーラ　えっというようにベッキーをちょっと見る セーラ　また手を動かす		ベッキー「おじょうさま！」 セーラ「え？」 ベッキー「おじょう様、あとは私がしますから、おじょう様は、先にお部屋に戻って下さいまし」 セーラ「でも……」
189	ベッキー　一歩前へ乗り出して		ベッキー「いいえ、おじょう様はお部屋へ戻ってからも、お独りでお勉強をなさっていらっしゃるんですもの」
190	セーラ手を止メ、身を起こし、ベッキーの方を向いて、おどろきの表情		セーラ「え！　どうしてそれを……」
191	ベッキー微笑んで		ベッキー「私、存じてたんです……おじょう様が皆さんに遅れないよう独りでお勉強を始めていらっしゃることを……」

192	セーラびっくりして		セーラ「まあ……」
193	ベッキー　セーラの手からモップを取り上げ、手を引いて棚の方へ		ベッキー「さ、あとはひとりで出来ますから…」
194	セーラを棚の方へ引っぱって行く		
195	ベッキー　ローソクをつかみ		
196	ベッキー　ローソクをセーラに手わたす		ベッキー「さ、これをお持ちになって……」
197	セーラ　ベッキーを見つめて		セーラ「ベッキー……」
198	ベッキー　セーラをチラリと見て、顔を伏せて去る 見送るセーラ		ベッキー「私、うれしいんです……」
199	洗い場の方へ行き 洗い場にもたれかける（少してれくさそうに）		ベッキー「おじょう様が不幸に負けず、勉強なさっていることが、自分のことみたいにうれしいんです」

200	セーラ　ニッコリ笑って	セーラ　「ありがとうベッキー」
201	ベッキー　セーラを見つめる はずかしそうに笑う	
202	セーラ　上がって来る	
203	ミンチンの部屋のドアの下から かすかに光がもれている その前をそっと通り	
204	奥の扉へ向かう（屋根裏部屋へ つづく扉）	
205	ドアが開き、屋根裏部屋への階 段がローソクで照らし出される セーラ　階段を登り始める	
206	階段を登りつめ、自分の部屋の 方へ向かう	
207	ハッとして止まるセーラ	

208	セーラの視観カット ドアの下から光がもれている （T・U）	
209	セーラ　脅えて思わずつぶやく	セーラ　「誰かいるんだわ……」
210	セーラ　そうと扉に近づきノブに手をかけようとする ちょっととまどってからノブをにぎり	
211	意を決したようにドアを開けにかかる	
212	ドアを開けると、アーメンガード　ベッドに座ってエミリーを抱いている セーラに気づいて、ハッとセーラに涙顔を向ける	
213	驚くセーラ	セーラ　「アーメンガード!!」
214	アーメンガード	アーメンガード「セーラ……」

	アーメンガード　エミリーをベッドに置いて急いでセーラに駆け寄る		
215	セーラにしがみつくアーメンガード（セーラ、ドア閉めるアクション入れて下さい！）		
216	ベッドの上にのこされるエミリー		
217	アーメンガード泣きながら セーラ　アーメンガードの肩を少しはなしてやさしく…… アーメンガード　顔を上げ、涙声で		アーメンガード「私、来たのよ……。やっとの思いで来たのよ……」 セーラ「アーメンガード……ここへ来たらどうなるか判っているの？」 アーメンガード「ええ、判っているわ、院長先生に見つかったら、ひどく叱られるってことくらい……」
218			アーメンガード「……でも、かまわないの……。私、来ないではいられなかったの……」 セーラ「アーメンガード……」

219	アーメンガード　すがるように セーラを見る アーメンガード　セーラの肩に 手をかけ少しゆさぶる		アーメンガード「ね、セーラ言って……もう、 私を嫌いになっちゃったの？　……… 私、もう、あなたの親友じゃないの？」
220	セーラとまどって 困惑のていで見つめるセーラ		セーラ「そんな……」 アーメンガード「だって……だって、あなたっ たら、あんなに冷たい言い方したんで すもの。 ……私……私、それが……悲しくて…… ずっとここで泣いていたのよ」
221	アーメンガードの眼に再び涙が 溢れそうになる		
222	セーラ　自分の肩にかかったア ーメンガードの手の上から、や さしく手をにぎる		
223	セーラ　肩に置かれた手をやさ しく見ながら アーメンガード　セーラを見つ めて		セーラ「そんなつもりではなかったのよ、ア ーメンガード」 アーメンガード「え……！」
224	セーラ　アーメンガードの肩に 手をやり、やさしくさとすよう		セーラ「一緒に座ってお話しましょう」

	にいう—— こっくり　うなずくアーメンガード アーメンガード　ちょっととまどってセーラを見て 見つめ合う二人 アーメンガードにこりとして 二人歩き出す	アーメンガード「あの、私を追い返したりしないの？」 セーラ「もちろんよ、どうぞ」 アーメンガード「え、ええ……」
225	ランプとイスに座っているエミリー	
225	セーラとアーメンガード　ベッドに並んでいる二人　そばのイスにはエミリー	セーラ「私は……アーメンガード…… ～ 今だってあなたを嫌いになってる訳ではないのよ」 アーメンガード「ほんとに！」 セーラ「でも……でも、色々な事が一ぺんに変わってしまって……。もう、今までみたいなお友だちではいられなくなってしまったのよ」
226	セーラ　アーメンガードを見つめて セーラ　うつ向いて	

227	アーメンガード身を乗り出して セーラ　アーメンガードを見る		アーメンガード「ち、違うわ……私、変わってなんていないわ……。だって話かけても、私から逃げようとしてるみたいなの、あなたの方ですもの……。私、どうしていいのか、頭の中がメチャ、メチャになって……」
228	セーラ　じっとアーメンガードから目をそらす		
229	アーメンガード　見つめ返す T・U ゆっくり　頭止メ　尻止メ 悲しげな表情（くもる眉）		
230	セーラ　またうつ向いて吐息する		セーラ「………　そうね……変わってしまったのは私だけなのかも知れないわ」
231	セーラ　またアーメンガードの方を向いて アーメンガードうなずいて セーラうなだれて		セーラ「でも、院長先生は私があなたたちと話す事だって、あれ程嫌がっていらっしゃるのよ」 アーメンガード「え、ええ、知ってるわ」 セーラ「だから…だから、私…あなたも私なんかに近づかない方がいいと思って…」

	アーメンガード　はっとなって激しく		アーメンガード「そ…そんな……！」
232	アーメンガード　セーラを見つめ願うように		アーメンガード「……私、あなたと話せなくなってから、まるで病気みたいだったのよ……。それで、ラビニアたちが寝ちゃうのを待って、やっとここへ来たの……。あなたに、もう一度お友だちになってってお願いによ……」
233	アーメンガードをじっと見つめるセーラ　T・U（カット一杯）		
234	セーラの手がアーメンガードの手を握る（激しく）		
235	エミリーなめセーラ感動してアーメンガードを見つめる		セーラ「アーメンガード……アーメンガード、私がいけなかったわ……。あなたって素晴らしいお友だちよ。私の大の親友だわ」
236	見つめていたアーメンガード		

	セーラに思わずすがりつくアーメンガード その時階段を登って来る足音 ハッとなってドアの方を見るアーメンガード		アーメンガード「セーラ……嬉しい！」 S・E（ギッ、ギッ）
237	抱き合っている二人 手前にエミリー		S・E（足音）
239A	アーメンガード　パッと身を起こし、セーラも振り返ってドアの方を見る セーラ耳をすまし、アーメンガード、セーラの方ににじり寄る 振り返って、微笑んで首を振る ほっとするアーメンガード		アーメンガード「院長先生だわ」 セーラ「大丈夫、ベッキーよ。おとなりのベッキーが帰って来たのよ」
238			
239B	明るくなってくる階段　ベッキー階段を上がって来る ベッキー　部屋の通路へ		

240	セーラの部屋の前　灯りがもれている		
241	それに気づくベッキー　にっこりとして		
242	セーラの部屋の前をそっと通りぬけるベッキー		
243	セーラ　アーメンガードにささやく セーラ　ちょっと振り返ってニッコリとほほえみ返す その時、コツコツと壁をたたく音 アーメンガード　ほっとうなずく		S・E　（ドアの閉まる音・バタン！） セーラ　「間もなく合図があるはずよ」 アーメンガード「え……?!」 S・E　（　　） セーラ（小声で）「ほら、ね！」
244	セーラ　壁をコツコツとたたき応える		
245	セーラ　壁の方を向いて		セーラ　「ベッキー、私、元気よ」（ささやく）

246	壁ぎわにいたベッキー　手前に来てにっこりとして、寝間着に着がえ始める		
247	セーラの部屋　セーラ、アーメンガードにほほえみを向ける		セーラ（小声で）「ね、こう言った訳なの」
248	アーメンガード		アーメンガード「素敵！……まるで電信みたい」
249	セーラ　口に指をあて		セーラ　「シイッ……！」
250	アーメンガード　あわてて首をひそめ、口に手をあてる		
251	アーメンガード　改めて部屋を見廻して		
252	天マド		
253	もえているローソク		
254	ながめ廻していたアーメンガー		アーメンガード「でも、セーラ……あなたこん

	ド、セーラの方を見て		なお部屋でくらしていけるの？」 セーラ「え……」 アーメンガード「暗くて、なんだか牢屋みたいなのに……」
255	セーラ　微笑んで答える		セーラ「ええ、なんとかやって行くつもりよ…。ほら、前に話した事あるでしょう。フランスの王妃、マリーアントワネットのこと……」
256			アーメンガード「ええ、憶えてるわ……フランス革命の時、タンプル僧院の中に捕えられたけど、アントワネットは最後まで王妃の威厳を失わなかったのでしょう」
257	セーラ　ちょっと喜んで		セーラ「まあ、アーメンガードったら、よく憶えていてくれたのね」 アーメンガード「勿論よ、私、あなたが話してくれた事なら、全部憶えてしまったわ。だって、とても面白かったんですもの」
258	セーラ　アーメンガードを見つ		セーラ「有難うアーメンガード……例え、こ

	め セーラすくっと立って 立ち上がるセーラ		こが牢屋みたいでも、私、変わったり くじけたりしないわ。 だって、私には、 親友のあなたや、 〜 おとなりには、ベッキーもいてくれる んですもの」
	A・C		
259	セーラ　壁の方を見る アーメンガードも見る		
260	ベッキー　寝息をたてて寝ている T・U　尻止メ		
261	セーラの部屋　アーメンガード 立って		アーメンガード「ね、セーラ、 私、これからも夜、時々ここへ来ても いい？」
262	セーラ		セーラ　「勿論よ……但し、院長先生に見つか らないようによ」
263	アーメンガード　嬉しそうに アーメンガード　ハッと思い出 して ペロリと舌を出してにっこりと して、木箱の方へ歩き出す		アーメンガード「ええ……。 あ、忘れてたわ」

264	アーメンガード手前に歩いて来る　セーラそれを見ている 机の上には石板		
265	アーメンガード　木箱の石板を取ると、振り返ってセーラに見せる		アーメンガード「セーラ、これ、あなたが勉強するのに要ると思って持って来たの」
267			セーラ「まあ……アーメンガード……」
268	アーメンガード　石板を持ってセーラの方へ歩いて来る		アーメンガード「セーラ……私、もっとあなたに勉強を教えて貰いたいの……。 ～
269	セーラ　感動してアーメンガードを見つめている　T・U（カット一杯）		(off) もっとあなたとお話がしたいの……。 ～
270	アーメンガード		いえ、もっと、もっとあなたと親友になりたいのよ」
271A	アーメンガードinして		セーラ「有難う、アーメンガード……私、こんな運命になって、ひとつだけ強く判

			った事があるの」
271B	アーメンガード		アーメンガード「えっ……」
271C	手を胸にあて		セーラ「辛いめにあうと、初めて人の気持がよく判るようになるんだって……。私も、それであなたがどんなに、いいお友だちだったか本当によく判ったのよ」
272	アーメンガード		アーメンガード「セーラ……」
273	セーラ　アーメンガードの手を取って		セーラ「さ、もう部屋に帰らなくては……。ここへ来た事は誰にも秘密よ」 ←（こぼす）
274	アーメンガード　セーラを見つめ		アーメンガード「ええ、判ってるわ、セーラ」
275	セーラの部屋の前　扉が開き出て来るアーメンガードとセーラ手前の方をうかがうようにしてしずかに——		

276	ランプを手に三階につづく階段 へ向かう二人		
277	階段から降り始める		
278	三階ホール　ドアが開き、出て 来るアーメンガード		
279	顔をのぞかせ、回りをさぐるア ーメンガード セーラつづいてそっと出て来る ドアを閉めるセーラ ハッと気づくアーメンガード セーラも振り返りハッと気づく		
280	行く手に立ち、唸るシーザー		
281	セーラとアーメンガード　いっ しょに口に手をやり		セーラ・アーメンガード「シィ……」
282	シーザー　セーラに気づいてお となしく尾を振る		

283	セーラ　アーメンガードに小声でささやく		セーラ　「さ、行きましょう」
284	そっとシーザーの前を歩いて行く二人 シーザー　それを見ていたが、セーラたちを追いかけ、前へ出て、ちょっと気どったようにセーラたちの前をいっしょになって歩いて行く		
285	そんなシーザーを見て		
286	尾を振り、行くシーザー		
287	笑い出す二人 声を出して笑いそうになったアーメンガードの口を二人でおさえる　そしてまたニコッと笑い合う		
288	二人とも、ぬき足さし足になって、そっと歩く		

	ミンチンの部屋の前へさしかかる		
289	ミンチンの部屋の前を通りぬけようとした時　ミンチンの咳		ミンチン「ゴホン」
	A・C		
290	ビクッと体をかたくする二人 しばらく部屋の前で動きを止めていたが、シイッとやり合う		
291	そんな二人を首をかしげて見ているシーザー		
292	またそっと階段を降り出す		
293			
294	アーメンガードの部屋の前 部屋に入ろうとしているアーメンガード		
295	部屋の中　寝静まっている 部屋のドアが開いてアーメンガ		

No.	画面		音声
	ードがのぞいている		
296	セーラ　アーメンガードにささやく アーメンガード　セーラの方を見て		セーラ（小声）「じゃ、お寝み、アーメンガード」 アーメンガード「お寝みセーラ……」
297	アーメンガード　ドアの中へ消える		
298	セーラ　大きく吐息をつく 気づいて足元を見るセーラ		S・E（ドアの閉まる音） S・E（シーザーの鳴き声）
299	シーザー　セーラの足にすり寄って甘えている		S・E（鳴き声）
300	セーラ　シーザーに		セーラ「シイッ……」
301	T・U		セーラⓃ「私は、重なる辛さの中で、思わずアーメンガードに冷たく当たってしまっていたのでした。でも、アーメンガードこそ、唯一、変わらないでいてくれ
302	セーラ　石板に石墨でフランス語（Mon－Piri）を書い		

てみるセーラ

303

真剣に勉強をつづけるセーラ

た、私の本当の親友だったのです……」 ←～～

＜END＞